



秋ひと日無為にて落丁のごとし	千田 百里
ひとすぢの溝白桃を閉ぢあはす	辻 美奈子
虚空いま均すものなし月渡る	湯橋 喜美
蜻蛉の尾いのちの明日を水に打つ	峰崎 成規
ゴーヤチャンプルなるやうにしかならぬ	広渡 敬雄
ドア開きホームドア開き秋暑し	細川 洋子
上等の米を買ひ来て初秋刀魚	福島 茂
もう秋の空草そよぎ水そよぎ	大畑 善昭
交番に立つ直立を射る西日	甲州 千草
輪唱のやうな風湧く蕎麦の花	菊地 光子
風鈴や片付き過ぎし部屋に鳴る	林 昭太郎
集まれば弱者も強し黒ぶだう	荒井千佐代
珠算塾いまだ盛んや西鶴忌	塙 誠一郎
少年でゐたき一日や唐辛子	菅原 健一
蜘蛛の囀は楽器奏づるは夜風	七田 文子
踊り子の手より阿保になつてゆき	兵藤 恵
水澄みてそこはかとなき貝の匙	栗坪 和子
天界の家紋は白き曼珠沙華	澤田 英紀
秋高し麒麟の一步は二米	嶋本 博司
計のつづく白さるすべりさるすべり	村上 葉子
逝く夏のポプラ祈りのごとく佇ち	多田ユリ子
稲刈つて無防備になる一町歩	柴田ふさこ
震災忌オール電化といふ不安	稗田 寿明
皆同じ向きの安らぎいわし雲	荒井千瑳子
曼珠沙華風に音叉の響きけり	道端 齊
磨ぎ汁を余さず畑へ今年米	岩波 博庸
柘榴はぜ一粒ごとにある主張	竹田 絹子
本心の透けて海月の浮き沈み	工藤 邦子
細密画近づくほどに涼しき目	吉村さよ子
ボクサーステップの人すれちがふ今朝の秋	久間 早苗

沖 の 水 脈

